

地方創生推進交付金 効果検証シート

交付金名	紀の川市フルーツエクスポート推進事業		担当課	農林振興課	検証日	令和2年7月10日	
事業目的	農政の本質的課題である「農業者の所得拡大」を実現するために、継続的に世界市場のトレンドを的確に捉え、本市の地域資源であるフルーツを積極的に輸出し、利益を常に意識した「攻めの農業」への構造改革を進める。						
財源 (千円)		当初予算額	補正額	決算額	執行率	主な支出(千円)	
	国費	1,665	0	1,252	75.2%		農産物販売促進事業(2,625千円)
	県費	0	0	0	0		
	市費	1,665	0	1,373	82.5%		
事業費	3,330	0	2,625				

PLAN【計画】

計画概要	<p>■紀の川市フルーツエクスポート推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Eコマースと物流サービスをパッケージ化し、個人消費者向けの輸出サービスの展開を模索する ・市場に合致し収益性が高い品目を、リレー供給できる産地化への誘導準備を紀の里農業協同組合と協議する ・効果測定と検証を行い輸出対象国の拡大を図る準備を整える
------	--

DO【実行】

実施結果	<p>■紀の川市フルーツエクスポート推進事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ①レストランプロモーションの実施…シンガポールのスイーツ店にて、紀の川市産のフルーツを使用したフェアを実施 ②eコマーステストマーケティングの実施 ③スキルアップセミナーの実施…「シンガポール」現地商談会に参加する事業者に対し、商談を進めるためのポイントや事例を用いたセミナーを開催 ④「シンガポール」における現地商談会の開催(2月23日~26日) → 新型コロナウイルス感染症の影響により中止 ⑤紀の川市フルーツエクスポート推進協議会の設立(総会の開催)
------	---

CHECK【検証】

指標	単位	申請時点	実績値(増加分)				最終目標値(R1)	
			H29	H30	R1	増加分計	増加分計	
本事業の K P I	台湾・香港への輸出額	千円	115,945	-9,361	-3,988	90,330	76,981	3,512
	小売業者との契約締結件数	件	0	2	0	0	2	9
	フルーツの栽培を開始した新規就農者数	人	34	8	5	5	18	11
市(担当課・推進本部)			審議会					
課題	<p>「シンガポール」における現地商談会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、台湾・香港への輸出額については、H29・30実施の海外商談会後、紀の里農業協同組合を中心に交渉・販売努力を続けた結果、特に「桃」・「柿」の輸出額が大幅に増加し、目標を上回る大きな成果をあげることができた。認定農業者数については、農業従事者の高齢化や後継者不足により減少傾向にあることから、地域農業の中心となる担い手(新規就農者)の確保に向け、さらに支援・取組みを強化する必要がある。</p>		課題		<p>農業従事者の高齢化・後継者不足が深刻化している中、農業の職業としての魅力を高めるためには、他産業並みの農業所得を確保することが重要です。そのためには、農産物の販売単価の上昇だけでなく、生産性・収益性の向上とあわせて、農業者の経営・マーケティング能力の向上も課題となります。併せて、担い手確保の面では次世代を含めた事業承継の観点も必要だと考えます。また、新型コロナウイルス感染症の影響による今後を見据えた新規販路の開拓、販路確保・拡大に向けた取組みも必要と考えます。</p>			

ACTION【改善】

市(担当課・推進本部)			審議会				
改善案	<p>輸出面においては、紀の里農業協同組合と連携し、引き続き、香港・台湾を中心に、販売のPRを促進するとともに、R1年度において試行したECサイトの更なる活用について検討を行う。また、R2年度において予定している、空港での販売PR(インバウンド向け)については、新型コロナウイルス感染症の影響を注視したうえで、実施の可否を協議する。</p> <p>農業の担い手確保の面では、次期地方創生推進交付金事業において新規就農者受入プログラムを創設し、移住も視野に入れた支援・取組みを実施する。併せて、事業承継の観点から、親元就農の支援を継続する。</p>		改善案	<p>交付金事業は終了となりますが、引き続き、観光分野等の他の関係部局と連携しつつ、フルーツを核とした農産物のブランド化等を進めるとともに、販売促進に努めていただきたい。また、新型コロナウイルス感染症の影響による市場の変化等も十分に研究し、ECサイトの活用等の新たな販路の開拓に努めていただきたい。</p> <p>農業の担い手育成の面では、R2年度から予定している新規就農希望者の人材育成・就農支援・就農後サポート・移住のための支援を計画的に実施するとともに、次世代を含めた事業承継を観点にした支援を進めてもらいたい。</p>			

議会	報告日	令和2年9月16日
----	-----	-----------

地方創生推進交付金 効果検証シート

交付金名	紀の川フルーツ・ツーリズムビューロー推進による地域ブランド力強化事業		担当課	地域創生課、観光振興課	検証日	令和2年7月10日	
事業目的	「シティプロモーション戦略」に基づき、市の認知度向上を図ると同時に、地域の観光の中核を担う「紀の川市版DMO」を設立し、一体的なプロモーションにより、交流人口の増加及び移住・定住人口の増加を図る。						
財源 (千円)	当初予算額	補正額	決算額	執行率	主な支出(千円)		
	国費	19,961	0	17,114	85.7%	シティプロモーション事業 (8,997千円)	
	県費	0	0	0	0	観光交流創造事業 (25,806千円)	
	市費	19,961	0	17,689	88.6%		
	事業費	39,922	0	34,803			

PLAN【計画】

計画概要	地方創生加速化交付金対象事業である、「『フルーツ』を核とした紀の川市シティプロモーション戦略推進事業」において、策定したシティプロモーション戦略に基づき事業を実施し、市の認知度を向上させる。また、主体性と実行性を兼ねそろえた紀の川市版DMOを運営し、フルーツを核とした周遊型観光の構築と、それに起因する新たな雇用を創出することにより、農業の所得向上を図る。
------	--

DO【実行】

実施結果	<p>■シティプロモーション事業</p> <p>① インフルエンサー体験会 (8/29) & アンバサダー任命 (9月・10月・12月)</p> <p>② メディアキャラバン (11月26・27日/関東圏の3ジャンル・5媒体のメディアへプロモーションを実施)</p> <p>③ KINOKAWAマルシェ (11月17日/大阪市・芦原橋アップマーケット)</p> <p>④ 「はっさくdeフルーツ湯」& プレスリリースの実施 (京都: 1月25・26日/大阪: 2月1・2日/京都: 2月8・9日) (web34媒体)</p> <p>⑤ 効果検証</p> <p>■DMO</p> <p>① 会議等の開催 (総会・理事会・合同部会)</p> <p>② 国内教育旅行の受入 (3団体・179名の受入)</p> <p>③ 訪日教育旅行の誘致 (6団体・168名の受入)</p> <p>④ 視察等の受入 (3団体・45名の受入)</p> <p>⑤ 旅行会社対象ファムツアー (1月22日/紀の川市現地視察会)</p> <p>⑥ 季節毎のフルーツ体験型ツアー造成・販売 (実績366人/内インバウンド229名)</p> <p>⑦ マーケティング調査の実施</p> <p>⑧ プロモーションの実施</p> <p>⑨ 観光交流拠点での観光案内・特産品の販売</p> <p>■紀の川市まちづくり人材育成塾の開催</p>
------	--

CHECK【検証】

指標	単位	申請時点	実績値 (増加分)				最終目標値 (R1)	
			H29	H30	R1	増加分計	増加分計	
本事業の K P I	観光人口【観光客入り込み客数】	人	1,880,000	-201,000	40,000	-5,000	-166,000	345,000
	新たな観光ルートの構築件数	件	0	0	5	10	15	5
	交流拠点利用者数	人	0	0	7,643	13,302	20,945	11,000
市 (担当課・推進本部)			審議会					
課題	シティプロモーションについては、認知度向上と共に、紀の川市の持つ「住」の魅力適切に伝えるプロモーションを強化しつつ、継続して実施する必要がある。 DMO分野においては、令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により交流拠点利用者数の減少が顕著であり、今後の状況も注視しつつ、国内観光客をターゲットとした戦略も含め、回復期に向けた準備・取組みが必要である。		課題		シティプロモーション事業を引き続き実施するにあたり、他の関係部局 (観光分野・農業振興分野・移住定住促進分野) との連携を含めた、プロモーションの「質」の向上が求められます。 また、DMO分野においては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、今後、事業計画の見直しやターゲットの追加・変更等が必要と考えます。併せて、観光地域づくりを進める中で、DMOが「地域が稼げる仕組みづくり」を進める上での中心的な役割を果たすことも重要です。			

ACTION【改善】

市 (担当課・推進本部)		審議会	
改善案	引き続き、恵まれた地域資源を活用し、観光分野とも連携しつつ地域の魅力を内外にアピールすることで、紀の川市に目を向けてもらう。併せて交流人口の増加を定住につなげるため、地域外と地域内の事業を織り交ぜながら移住・定住につながる「住む」に着目したプロモーションを展開する。 DMO分野においては、国内観光客をターゲットとした「きのかわステイファーム (体験農泊)」の構築等、引き続き地域ぐるみでの観光振興に取り組む。また、R2年度から実施する広域連携事業「閑空立国デスティネーション化推進事業」において、新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、周遊化アプリの開発等に取り組む。	改善案	シティプロモーション事業に関し、地域資源であるフルーツを活用したイメージアップは重要であり、引き続き他の関係部局との連携のもと多角的な取組を進め、市内外へ地域の魅力を情報発信していただきたい。併せて移住定住促進プロジェクトである次期地方創生推進交付金事業において中核となる事業展開を図っていただきたい。 観光分野においては、新型コロナウイルス感染症拡大によって求められる観光客が安心して楽しむことができる受け入れ環境や魅力的な滞在コンテンツを整え、国内観光客を主なターゲットとしつつ、将来的にインバウンドへの活用も視野に入れた中で、旅行消費額の向上と農作物のブランド化・消費拡大による観光・農業振興に取り組んでいただきたい。

議会	報告日	令和2年9月16日
----	-----	-----------

地方創生推進交付金 効果検証シート

交付金名	紀の川フルーツエクスポート推進事業		担当課	農林振興課	検証日	平成30年6月1日
事業目的	農政の本質的課題である「農業者の所得拡大」を実現するために、継続的に世界市場のトレンドを的確に捉え、本市の地域資源であるフルーツを積極的に輸出し、利益を常に意識した「攻めの農業」への構造改革を進める。					
財源 (千円)	当初予算額	補正額	決算額	執行率	主な支出(千円)	
	国費	2,445	0	1,848	75.6%	農産物販売促進事業(4,721千円)
	県費	0	0	0	0	
	市費	2,445	0	2,873	117.5%	
	事業費	4,890	0	4,721		

PLAN【計画】

計画概要	<p>■紀の川フルーツエクスポート推進事業</p> <p>地方創生加速化交付金事業である、「ローカルブランディング紀の川市」のアンケート調査より、「台湾」「香港」が食頻度が高く、好きなフルーツの上位は「桃」「いちご」「キウイフルーツ」となっているため、「台湾」「香港」へフルーツの輸出を拡大するために、現地商談会を開催する。</p>
------	--

DO【実行】

実施結果	<p>■紀の川フルーツエクスポート推進事業</p> <p>i) スキルアップセミナーとして「出展者説明会」「ネゴシエーションセミナー」を実施。</p> <p>ii) 「台湾」「香港」で現地商談会を開催。</p>	<p>商談会①</p> <p>開催場所：台湾</p> <p>開催日：平成29年9月12日～9月13日</p> <p>参加企業：3社、対象フルーツ：桃</p> <p>商談回数：33商談、商談成立数：0件</p>	<p>商談会②</p> <p>開催場所：香港</p> <p>開催日：平成30年1月23日～24日</p> <p>参加企業：3社、対象フルーツ：キウイフルーツ</p> <p>商談回数：28商談、商談成立件数：2件</p>
------	---	--	---

CHECK【検証】

指標	単位	申請時点	実績値(増加分)			目標値(H29)	最終目標値(H31)
			H29	増加分計	増加分計	増加分計	増加分計
本事業の K P I	台湾・香港への輸出額	千円	115,945	-9,361	-9,361	1,159	3,512
	小売業者との契約締結件数	件	0	2	2	3	9
	フルーツの栽培を開始した新規就農者数	人	34	8	8	4	11

市(担当課・推進本部)		審議会	
課題	<p>契約締結数はH29年度では2件だが、契約締結に向け、継続的に協議を行っている。</p> <p>現状は台湾・香港への輸出額増加へはつながっていないが、契約締結等の成果は出てきているので、継続的に行っていく必要があると考える。</p>	課題	<p>事業初年度であったが、紀の川市産フルーツに対する宣伝効果は見受けられた。取組を継続し、販路を拡大することにより、長期的には農業者の所得が向上すると考えられるため、フルーツの種類の拡大や他事業との連携を模索し、農業者所得の更なる向上を推進していただきたい。</p>

ACTION【改善】

市(担当課・推進本部)		審議会	
改善案	<p>昨年度は台湾(桃)、香港(キウイ)だったため、今年度は台湾(キウイ)、香港(桃)の商談会を実施する。また、紀の川市産フルーツの知名度向上のため、航空会社・製菓会社と共同でフルーツを使用した製菓を作製し、インバウンド観光客等へ訴求する。</p>	改善案	<p>事業計画では、来年度eコマースのテスト販売を行うことになっている。eコマースについては、ニーズ調査が重要になってくるため、事前準備を早めに行い、商圏にあったフルーツの提供をできるようにしていただきたい。</p>

議会	報告日	平成30年6月19日
----	-----	------------

地方創生推進交付金 効果検証シート

交付金名	紀の川フルーツ・ツーリズムビューロー推進による地域ブランド強化事業		担当課	地域創生課、観光振興課	検証日	平成30年6月1日
事業目的	「シティープロモーション戦略」に基づき、市の認知度向上を図ると同時に、地域の観光の中核を担う「紀の川市版DMO」を設立し、一体的なプロモーションにより、交流人口の増加及び移住・定住人口の増加を図る。					
財源 (千円)	当初予算額	補正額	決算額	執行率	主な支出(千円)	
	国費	22,128	0	17,950	81.1%	広報広聴事業(14,494千円)
	県費	0	0	0	0	観光交流創造事業(29,057千円)
	市費	22,128	0	25,601	115.7%	
	事業費	44,256	0	43,551		

PLAN【計画】

計画概要	地方創生加速化交付金対象事業である、「『フルーツ』を核とした紀の川市シティープロモーション戦略推進事業」において、策定したシティープロモーション戦略に基づき事業を実施し、市の認知度を向上させる。また、地域観光の推進を主体的かつ中核を担う組織として「紀の川市版DMO」を設立し、継続的に稼ぐ観光産業を創出する。
------	--

DO【実行】

実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ■シティープロモーション事業 <ul style="list-style-type: none"> i) プレスリリースセミナー、情報拡散セミナー、地域資源再発掘ツアーを開催 ii) 女子会ワークショップを開催し、シティープロモーション物品を作成 iii) オンラインワントレイン（南海電鉄）でポスター掲示 iv) トラベルガールズフェスタ2017へ出展 v) コンセプトブックの作成 ■DMO設立準備 <ul style="list-style-type: none"> i) 設立準備委員会、設立準備ワークショップを開催 ii) 観光動向等の調査、観光資源調査を実施 iii) モニタリングツアーを開催 iv) 支援セミナー（旅行商品づくり勉強会）等を開催 vi) DMOが使用する拠点の整備（真志駅前）（完成は今年度予定）
------	---

CHECK【検証】

指標	単位	申請時点	実績値(増加分)			目標値(H29)	最終目標値(H31)
			H29		増加分計	増加分計	増加分計
本事業の KPI	観光人口【観光客入り込み客数】	人	1,880,000	-201,000	-201,000	50,000	340,000
	新たな観光ルートの構築件数	件	0	0	0	0	5
	交流拠点利用者数	人	0	0	0	0	11,000
市(担当課・推進本部)			審議会				
課題	シティープロモーションについては、知名度向上だけでなく、移住定住に直接つながる取組が必要かの検討を行う必要がある。DMO整備については、拠点建設予定地のせい弱な地盤への対応により建設が遅れ、拠点の開設が予定より遅延した。		DMOについては、資金繰りや利益が発生する仕組みを検討しながら、設立を行っていただきたい。また、様々な事業に波及するようにシティープロモーションと積極的な連携を図り、市民と協働で互いにフィードバックできる取組を進めていただきたい。				

ACTION【改善】

市(担当課・推進本部)		審議会	
改善案	DMOの法人設立を予定している9月と同時期に拠点を開設し、観光客の誘客と地域活性化を推進する。 また、更なる知名度向上を目指し、メディアキャラバンや動画作成等を新たに取り組む。	改善案	紀の川市の重要な地域資源である「フルーツ」を継続的な資源とし、観光やプロモーションに活用するためには、農業の活性化が重要になってくるため、農業の活性化への波及効果が生まれる仕組みも検討していただきたい。 京奈和自動車道の開通による、関空へのアクセス向上が強みでもあるので、より紀北地域に観光客が来るように、他のフルーツを強みとしている団体などとの連携の検討も必要である。

地方創生推進交付金 効果検証シート

交付金名	紀の川市フルーツエクスポート推進事業				担当課	農林振興課	検証日	令和1年6月3日
事業目的	農政の本質的課題である「農業者の所得拡大」を実現するために、継続的に世界市場のトレンドを的確に捉え、本市の地域資源であるフルーツを積極的に輸出し、利益を常に意識した「攻めの農業」への構造改革を進める。							
財源 (千円)	当初予算額	補正額	決算額	執行率	主な支出(千円)			
	国費	2,470	0	1,853	75.0%	農産物販売促進事業(3,920千円)		
	県費	0	0	0	0			
	市費	2,470	0	2,067	83.7%			
	事業費	4,940	0	3,920				

PLAN【計画】

計画概要	<p>■紀の川市フルーツエクスポート推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優位的に商談をすすめるために、輸出セミナー（ネゴシエーションセミナー）を開催する ・台湾・香港の2ヶ国で、現地商談会を開催し、卸売業者・小売業者等へ販路確保を訴求する ・多角経営の可能性を拡張するために、市場価値が低いフルーツ（B級）を利活用した商品を、製造販売する
------	---

DO【実行】

実施結果	<p>■紀の川市フルーツエクスポート推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 商談を優位に進めるために、参加事業者を対象に「出展者説明会」・「スキルアップセミナー」を実施。 ii) 「香港」「台湾」で現地商談会を開催。 香港 / 開催日：11月6日～11月7日 / 参加事業者：2社 / 商談回数：24商談 台湾 / 開催日：2月26日～2月27日 / 参加事業者：3社 / 商談回数：31商談 iii) UHA味覚糖・Peach Aviationとコラボした「ココロPeach」を開発。12月1日からPeach機内で先行発売し、1月28日からは関西のスーパー・ドラッグストアで販売を開始。
------	--

CHECK【検証】

指標	単位	申請時点	実績値(増加分)			目標値(H29)	最終目標値(R1)	
			H29	H30	増加分計	増加分計	増加分計	
本事業の K P I	台湾・香港への輸出額	千円	115,945	-9,361	-3,988	-13,349	2,330	3,512
	小売業者との契約締結件数	件	0	2	0	2	6	9
	フルーツの栽培を開始した新規就農者数	人	34	8	5	13	8	11

市(担当課・推進本部)			審議会					
課題	輸出額については、桃の不作等の理由による事業以外の減少幅が大きく、また、ある程度の契約は達成できたが、1契約あたりの輸出額が少なく、輸出額増加にまでつなげられなかった。契約件数については、商談会終了後も継続して商談を行っているため、今後増加する可能性があるが、KPIの達成には、契約件数の増加もしくは、1契約あたりの輸出額の増加が必要であることが分かった。		課題	農業の後継者不足が深刻化している中、農業を魅力的な就業先とするためには、農業所得の向上が重要です。そのためには、農業産出額が増えるのはもちろんですが、農産物の販売単価の上昇が併せて求められます。また、農業者の経営・マーケティング能力の向上も課題となります。				

ACTION【改善】

市(担当課・推進本部)			審議会					
改善案	台湾・香港での商談会では一定の成果があり、バイヤーとの接点も出来たため、今後継続的に商談を行うことにより、輸出額増加につなげていく。しかし、商談会参加者の市場規模が想定していたより小さかったため、台湾・香港における商談会に参加するのみでは、輸出額の増加に限界がある。そこで、更なる輸出額増加に向けて、市場規模が大きくアジアにおける流通の拠点であるシンガポールで現地商談会を実施することにより、新たなバイヤーとの接点を形成し、輸出量増加につなげる。		改善案	引き続きフルーツを核とした農産物のブランド化等を進め、農業所得の向上を図る必要があり、農産物の生産以外の体験型農業等についても展開を進め、様々な面で収益を上げる仕組みの検討も必要であると考えます。また、空港での販売・PRなど、インバウンド(外国人旅行者)をターゲットとした取組みにより輸出に繋げる方策についても検討いただきたい。なお、Eコマーステストマーケティングにおいては、ネット市場販売の可能性を十分に検証していただきたい。				

議会	報告日	令和1年6月17日
----	-----	-----------

地方創生推進交付金 効果検証シート

交付金名	紀の川フルーツ・ツーリズムビューロー推進による地域ブランド強化事業	担当課	地域創生課、観光振興課	検証日	令和1年6月3日	
事業目的	「シティプロモーション戦略」に基づき、市の認知度向上を図ると同時に、地域の観光の中核を担う「紀の川市版DMO」を設立し、一体的なプロモーションにより、交流人口の増加及び移住・定住人口の増加を図る。					
財源 (千円)	当初予算額	補正額	決算額	執行率	主な支出(千円)	
	国費	22,128	0	20,364		92.0%
	県費	0	0	0		0
	市費	22,128	0	22,753		102.8%
	事業費	44,256	0	43,117		
					広報広聴事業(8,143千円)	
					観光交流創造事業 (34,974千円)	

PLAN【計画】

計画概要	地方創生加速化交付金対象事業である、「『フルーツ』を核とした紀の川市シティプロモーション戦略推進事業」において、策定したシティプロモーション戦略に基づき事業を実施し、市の認知度を向上させる。また、地域観光の推進を主体的かつ中核を担う組織として「紀の川市版DMO」を設立し、継続的に稼ぐ観光産業を創出する。
------	--

DO【実行】

実施結果	<p>■シティプロモーション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> i) プレスリリース支援 (コロロPeach発売にかかるプレスリリース実施/WEB49媒体) ii) メディアキャラバン (4ジャンル・11媒体のメディアへプロモーションを実施) iii) 女子会ワークショップ開催 iv) トラベルガールズフェスタ2018へ出展 v) PR動画制作 <p>■DMO</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 設立準備委員会、意見交換会等の開催 ii) (一社)紀の川フルーツ観光局の設立 iii) ホームページの制作 iv) 旅行商品、特産品販売サイトの制作 v) マーケティング調査の実施 vi) 国内・海外プロモーション vii) 旅行商品の開発・販売 viii) 観光交流拠点配布用観光パンフの制作 ix) 観光交流拠点での観光案内、特産品販売 <p>■紀の川市まちづくり人材育成塾の開催</p>
------	---

CHECK【検証】

指標	単位	申請時点	実績値 (増加分)			目標値 (H30)	最終目標値 (R1)	
			H29	H30	増加分計	増加分計	増加分計	
本事業の K P I	観光人口【観光客入り込み客数】	人	1,880,000	-201,000	40,000	-161,000	180,000	345,000
	新たな観光ルートの構築件数	件	0	0	5	5	2	5
	交流拠点利用者数	人	0	0	7,643	7,643	3,000	11,000
市 (担当課・推進本部)			審議会					
課題	シティプロモーションについては、市の知名度向上の観点でイベント等に参加したが、他地域との差別化が出来なかったため、観光客の増加にはつながらなかった。また、DMO分野においては、交流拠点設置後の体制づくり等に期間を要し、本格的な運営には至らなかった。		課題					
			シティプロモーションは「地域イメージの向上」「交流人口の増加」「定住人口の増加」等様々なコンセプトが考えられるが、それぞれの戦略は異なるため、コンセプトを明確にし、そのコンセプトに沿った取組を進める必要があります。また、DMOにおいても、プロモーションは重要なので、コンセプトや戦略等の整合性を検討し、一体的な展開が必要です。					

ACTION【改善】

市 (担当課・推進本部)			審議会					
改善案	事業の結果、女性をターゲットとしたプロモーションでは、評価を得ることができた。これを有効に活用し、都市部でのマルシェ形式イベントや関西圏の銭湯でのイベントを実施することで、女性向けのプロモーションを強化し、観光誘客に注力する。また、他地域との差別化を図るため、市産フルーツのブランドイメージを高め、対外的にPRを行うことで、知名度向上を図る。DMO分野においては、紀の川フルーツ観光局運営の強化・継続に向け、よりマーケットを意識した旅行商品の開発と効果的なプロモーションを進めていくとともに、地域ぐるみでの観光振興に取り組む。		改善案					
			シティプロモーションとDMOが更に連携を強化し、紀の川市の重要な地域資源である「フルーツ」を継続的な資源として観光やプロモーションに活用した取組を進めていただきたい。また、訪日教育旅行の受け入れ等も検討し、併せて、農業振興による地域活性化を「移住・定住人口の増加」に繋げる仕組みづくりについても検討していただきたい。 なお、「フルーツ」以外の観光資源、「青洲の里」「粉河寺」「国分寺」等についても「食べる」「見る」の視点以外の「考える」視点での活用を検討し、更なる地域資源のブラッシュアップを行ってください。					

議会	報告日	令和1年6月17日
----	-----	-----------